平和記念だより 92

2024年7月

◆編集・発行/高松市市民局人権・男女共同参画推進課　高松市平和記念館
◆連　絡　先/〒760-0068 高松市松島町一丁目 15 番 1 号 たかまつミライエ 5 階
TEL(087)833-2211　FAX(087)833-2244

平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

令和６年５月１１日(土)、たかまつミライエ１階多目的室において、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第一部「平和を語るつどい」は、大阪平和委員会理事長の近藤正さんによる講演、「高松空襲での戦争体験」です。地をはう炎や舞い上がる風、逃げ込んだ地下壕の板戸にかけた水が蒸発する音など、空襲のすさまじさが臨場感に富んだ言葉で語られました。近藤さんは、“戦争は起こしてはいけない、そうならないような対話が必要なのだ”と強く訴えました。

第二部「憲法記念平和映画祭」では、「８時 15 分　ヒロシマ　父から娘へ」を上映しました。広島に投下された原子爆弾により、至近距離で被爆した父の壮絶な体験を、娘が丹念に聞き取り執筆した書籍が原作の映画です。生きることを諦めなかった父の想(おも)いと、娘へと受け継がれた世界の平和を叶えるためのメッセージが伝わってきます。

ご多忙の中、ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

参加者の声

■空襲の実体験に基づいた講演を聞き、改めて戦争の恐ろしさ、平和の尊さを学ぶことができました。■お母さまやお姉さまとの家族のきずなも感じました。小学生の娘と来ることができてよかったです。■「８時 15 分　ヒロシマ　父から娘へ」は、極限の状況で経験した地獄と救いが、最後に「強い意志と許し」という思いに昇華されていく作品の作り方と主人公「美甘(みかも)」さんの人生に感銘を受けた。■これからも戦争や原爆について語り繋げてほしいと思いました。今も世界のどこかで同じようなことが繰り返されていることに心を痛めます。

近藤正さんの講演

会場の様子

証言 高松空襲

あの日わたしは

証言⑨　小西百々代さん

空襲のときは丸亀町にあった自宅から、最低限のものを持ち、飼っていた犬を抱えて逃げた。逃げている途中、父や母とはぐれ、私は一人ぼっちになった。紺屋町を通って西へ向かい、電車道を南へと行き、高松中学校の南門から校内に入り、カボチャ畑になっていたグランドに避難した。そこで出会ったおばちゃんと一緒に、目の前の校舎が焼け落ちる中、二人で一つの夏布団をかぶって長い間伏せていた。やがて朝になり、真っ黒な煙の中、大きな朝日が昇ってきた。隣を見ると、おばちゃんは頭に焼夷弾(不発弾)の直撃を受けて死んでいた。

証言者プロフィール

■当時　女学校１年生

■住所　丸亀町

■家族　４人
父母
子ども２人

■家業　書店

「あの日わたしは　高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

７月の上映　**「対馬丸-さようなら沖縄-」**（75 分）

日　時▶　７月１３日からの土・日・祝日、午後２時～

解　説▶　昭和 19 年夏、戦争が激しくなり、沖縄のこどもたちを学童疎開させることになった。疎開船「対馬丸」は８月 21 日那覇を出航。しかし、翌 22 日夜、米潜水艦の魚雷攻撃を受けた対馬丸は、一瞬のうちに沈没し、多くの犠牲者を出してしまう。ドキュメンタリー小説を原作とするアニメーション。

８月の上映　**「ぞう列車がやってきた」**（80 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝日、午後２時～

解　説▶　戦争が激しくなる中、「動物園の猛獣を処分せよ」という命令に反抗し、象を守り抜いた名古屋、東山動物園の人々の姿を描いた長編アニメーション。やがて、終戦を迎え、日本でたった２頭生き残った象を見るために各地から大勢の子どもたちを乗せた「ぞう列車」がやってくる。

９月の上映　**「ふるさと-JAPAN-」**（98 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝日、午後２時～

解　説▶　戦争末期、特攻機で死んでいった若者、そして戦後の平和な時代に海の事故で死んでしまった少女。亡くなった者の無念さや思いを受け継ぐため、童謡や唱歌の指導に情熱を注ぐ若い教師とそれに応える子どもたちの姿を描いた長編アニメーション。

※　都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

▽今後の行事予定△

6,7月

- **高松空襲展**
  期　日　令和６年６月２８日（金）～7月7日（日）
  場　所　たかまつミライエ５階　平和記念館
  内　容　高松空襲の被災写真・絵画・資料パネルを展示

7月

- **高松市戦争遺品展**
  期　日　令和６年７月１２日（金）～7月１８日（木）
  場　所　瓦町 FLAG２階　コンコース
  内　容　「武器なき戦士たち」と題し、写真・パネル・資料を展示

- **教職員のための平和教育講演会**
  期　日　令和６年７月３１日（水）
  場　所　たかまつミライエ　会場については未定
  内　容　講演(内容未定)と「平和学習」の説明

8月

- **原爆パネル展**
  期　日　令和６年８月４日（日）～８月１０日（土）
  場　所　瓦町 FLAG８階　IKŌDE 瓦町展示コーナー
  内　容　原爆関連資料を展示

10月

- **高松市戦争遺品等収蔵品巡回展**
  期　日　令和６年１０月４日（金）～１０月５日（土）
  場　所　上天神文化センター
  内　容　市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

※　都合により、開催を中止・延期することがあります。

収蔵品紹介82

認識票（にんしきひょう）

寄贈者　　岡　忠雄 様

小判型をした真鍮（しんちゅう）製の札。表面には「虎、8517、21、AB」と刻印されている。「虎」は朝鮮に置かれた師団の名称、「8671」は所属していた部隊、「21」は兵籍番号、「AB」は血液型を表す。戦場で亡くなった場合には、本人であることを証明する大切なものとなる。

寄贈者は、出兵する際に渡された認識票を、1943(昭和１８)年から 1945(昭和２０)年まで身につけていた。最初はひもで首につるしていたが、紛失しないようにベルトに縫いつけて所持した。

平和記念館常設展示コーナーに展示中

戦時用語解説 74

戦災孤児

【読み】せんさいこじ

【分類】戦争による被害

戦争によって保護者を亡くした子どもたち。1948(昭和２３)年の厚生省による調査では、全国で１２万人を超える孤児が確認されている。田舎に疎開している間に家族が空襲によって死亡し、孤児となったケースも多い。

戦争で保護者を失った孤児たちにとって、戦後の荒廃した時代を生きることは生易（なまやさ）しいことではなかった。孤児収容施設も不十分で、引き取り手がないまま住居が定まらずさまよったり、親類・知人の間をあちこち行かされたり、養子に出され安価な労働力として働かされたりで、義務教育すら満足に受けられない孤児も大勢いた。

参考：「手塚治虫の漫画の原点」
発行　昭和館

編集メモ

平和記念館常設展示室の一隅にある「さわれるコーナー」では、戦争遺品に直接触れることができます。前身の平和記念室から続く人気のコーナーです。今回、展示品を一部見直し、「奉公袋」と「飯盒（はんごう）」を新たに加えました。「奉公袋」の中に入れていた身の回り品等の説明のプレートも併せて展示しているので、兵士がどのようなものを携行していたかがわかります。「さわれるコーナー」の展示品に触ることで当時の様子を思い浮かべ、人々の苦労を推し量っていただきたいと思います。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29~1/3
入 館 料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QR コード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回 93 号発行は、2024 年 10 月です。